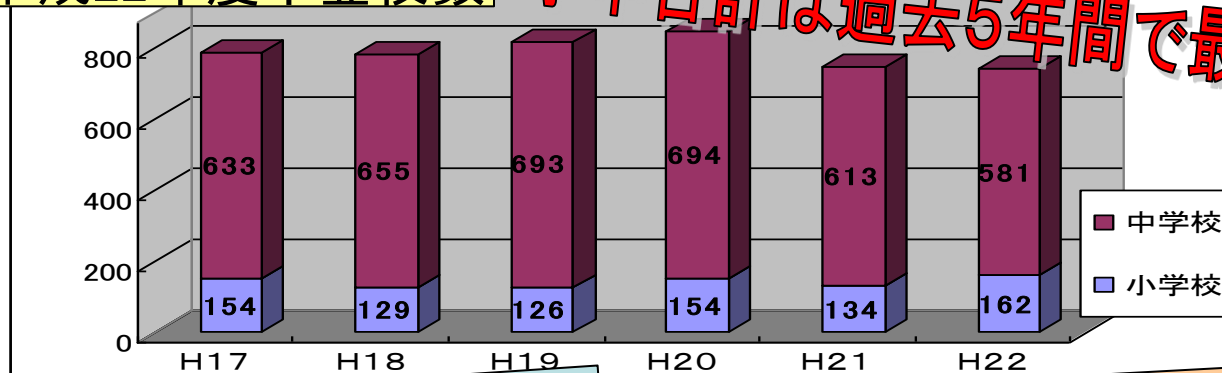


不登校未然防止中学校区プロジェクトは今…

平成22年度不登校数 小中合計は過去5年間で最少



小学校は、21年度に比べ28人の増加でした。過去5年間で最も多くなりました。発生率も、0.07%上がり、全国平均の0.32%より高い0.38%になりました。

中学校は、21年度に比べて32人減少しました。これは、過去5年間で最少の数です。発生率も0.07%下がり2.75%になりました。全国平均の2.74%に近い状態です。

毎月の支援会議で

語られた取組の成果例

(教育相談センター＋教育相談室＋地区担当指導主事＋学校支援課)



A小学校（学校での定期的な面談の成果）

昨年度から不登校が続いていたEさん。学校で定期的な面談を繰り返していくうちに学習の遅れが原因ではないかと分かり、個別指導を繰り返した結果、9月から再登校を始めた。

B小学校（保護者への働きかけの成果）

一昨年度から全欠状態だったFさん。相談センターと学校の働きかけで父親がFさんへのかかわりを始めた。偏食やゲームの時間制限などに取り組んだ結果、修学旅行をきっかけに登校を始めた。

C中学校（欠席管理の成果）

不登校担当者が、日々の欠席状況に加え、登校時刻の変化にも注意し、担任との連絡を密にした結果、不登校の減少だけでなく、いじめや問題行動の早期対応に役立った。

D中学校（関係機関との連携の成果）

学校と家庭の連絡が十分にできない状況。区健康福祉課の家庭児童相談員が地区の民生児童委員と連携し、両親に粘り強く働きかけた結果、援助を受け、家庭生活が安定し、登校に至った。

不登校数の減少は、これまでの各校での継続的な取組の成果です。ありがとうございました。まだまだ安心できる状態とは言えませんので、引き続き「不登校未然防止中学校区プロジェクト」の確実な推進をお願いします。

授業づくりワンポイントシリーズ 国語

平成23年7月12日(火) 黒埼南小学校 6年1組 授業者 藤島 孝弘 教諭

今回の学習指導要領改訂の要点の一つとして、伝統的な言語文化に関する指導の重視があります。これまでは、中学校で取り上げられてきた古典を小学校でも扱うことになりました。藤島先生の授業は、「春暁」という漢詩を取り上げ、漢文を音読し、内容の大体を知り、言葉の響きやリズムを味わうというものでした。

【授業の概略】

子どもたちは、自分の知っている漢字を手掛かりに、どんな詩かを想像していきました。班の友だちと話し合い、学級全体で内容の大体が分かったところで、くり返し音読しました。音読することで、言葉の響きやリズムの良さを感じ取っていきました。

春暁
しゅんぎょう
しゅんみんあかつき
しよしよていちちゆう
処処啼鳥を聞く
やらい
夜来風雨の声
お
花落つること知る多少

孟浩然
もちこうねん

【藤島実践から学んだこと】

(1) 授業の進め方

- ① 初めて読む漢詩ですが、類似した言葉から考えたり、生活経験と結び付けながら考えたりすることができるようにしたため、子どもたちは楽しんで想像していました。
- ② 子どもたちが辞書を自主的に使い、漢詩の言葉を調べていました。
- ③ 音読の形態を変え、暗唱へと発展させるなど適切な負荷をかけられたので、子どもたちが意欲的に音読・暗唱する姿が見られました。

(2) かかわりの組織

- ① 班で力を合わせて漢詩の意味を探るという共通の目的があったため、班での積極的な話し合いが展開されました。
- ② 全体で1行目を考えてから、班での学習を組織したため、学習の見通しをもつことができ、班での話し合いが円滑に進みました。
- ③ 前時まで、「論語」などで同じ学習過程を展開していたことや前時の記録が掲示されていたため、どのような学習を進めていけばよいかという見通しを子どもたちが立てていました。



かかわりを促す教師の支援



なごやかな雰囲気が生む柔らかな笑顔

授業の冒頭、初見の漢詩の音読に挑戦します。しかし、当然のことながら何度もつまづきます。しかし、それを決してひやかしたりすることではなく、それを励ましながら聞く藤島学級。班での話し合いも、とてもなごやかに進みました。

「授業でどんどん発言すること」「授業での失敗を絶対に笑わないこと」を、藤島先生は子どもたちに言い続けてきたそうです。授業の基盤となる学級づくりは本当に大切です。互いを認め合い、何でも自由に言える雰囲気が、子どもたちの積極的なかかわりを促します。学級集団を育てることの大切さを改めて実感しました。

＜文責 齋藤 純一＞

授業づくりワンポイントシリーズ 外国語活動

平成23年6月7日(火) 白根小学校 6年1組 授業者 佐藤 貴子 教諭

英語ノート2 単元Lesson2 「いろいろな文字があることを知ろう」の第4時間目の授業です。世界には様々な言葉がある中で、なぜ英語を学習するのかを考えたり、アルファベットの大きい文字と小さい文字の関係に気付かせたりしながら、アルファベットの言い方に慣れ親しませます。第4時間目である本時は、コミュニケーション活動を主とした時間でした。

ポイント1 本時の目標を確認する

あいさつの後、「見つけたアルファベット表示を楽しく紹介しよう」と黒板に板書。全員で確認した後、授業はスタートします。

目標の押さえがないまま、活動が次々と展開されていく授業をよく見かけますが、本時では、目標を子どもにきちんと明示していました。

ポイント2 語彙や表現に十分に慣れ親しませた後で、発話を促す

本時のメイン活動に入る前に、いろいろなやり方で、アルファベットを聞いたり言ったりする活動が仕組んでありました。前時に行った活動をアレンジして、飽きさせずにアルファベットに親しむ工夫がなされています。

- ・ 授業の最初に毎時間歌ってきた「数字の歌」の歌詞をアルファベットに替えて歌う活動
- ・ 裏返しにした大文字カードと小文字カードをそれぞれめくって発音し、マッチさせていく「文字合わせゲーム」 など



文字合わせゲーム

単元の主となる活動をスムーズに行うための大切な手だてとなります。

ポイント3 聞く必然性のある活動・言いたくなる活動を設定する

自分たちが身の回りから見つけたアルファベット表示を紹介し合うのが、本時のメインのコミュニケーション活動でした。

英語ノートでは、選んだアルファベット表示を紹介するだけの活動

このように子どもたちの興味関心や実態等をよく把握して、英語ノートの活動を工夫改善していくことが大切です。

佐藤先生は、子どもたち自身が3つのヒントを出しながら、どんなアルファベット表示かを推測させるクイズ形式の活動に変えて、話したり聞いたりする意味のある活動としました。



グループで3ヒントクイズを出題

ポイント4 本時の振り返りをクラスで共有する

終末では、学習を通して感じたことや考えたことについて、「振り返りカード」に書いた内容を数人に発表させ、クラス全体で本時を振り返りました。

基本的なことですが、案外見過ごされがちです。この授業では、振り返りが確実に位置付けられていました。



教室を見渡すと、横壁面には身の回りでよく見かけるアルファベット表示の掲示物がたくさん貼ってありました。背面には国語の時間に書いた習字の掲示物。「字」→「う」など日本語と同様に小文字も大文字と関係があることに気付かせようとする意図があります。学習環境への配慮とともに、他教科で学習したことを外国語活動にうまく関連付けて指導している様子が伝わってきました。

<文責 由野 和美>



介助員研修会



新潟市では、幼・小・中・特別支援学校の心身に障がいがある幼児・児童・生徒の教育活動を有効かつ安全に実施するために介助員を約300人配置しています。

介助員の配置により、教員の指導の下、よりきめ細かな対応が可能となり、個々の学力を伸ばすとともに学級運営を円滑に実施できるようになっています。また、幼児・児童・生徒の安心・安全な園・学校生活の確保にも効果を上げています。

特別な支援が必要な幼児・児童・生徒が年々増加傾向にあり、障がい種も多岐にわたるため、毎年2回、介助員研修会を実施しています。本年度は、2回の研修会を下記の内容と期日で東地域、西地域に分かれて実施しました。



第2回西地域研修会の様子 134人参加

平成23年度 第1回介助員研修会

1 研修内容 講義形式

演 題 特別な支援が必要な児童生徒に対する具体的な支援
～行動の理解と介助の在り方～

講 師 新潟大学教育学部准教授 有川宏幸 様

2 研修期日 東地域 4月27日(水)15:00~16:30 特別支援教育サポートセンター
西地域 5月11日(水)15:00~16:30 新潟市総合教育センター



【有川准教授からのアドバイス】

- 子どもの「行動の目的」を探り当てましょう。
- 適切な行動はすぐ(60秒以内)にほめて強化しましょう。
- 「学ぶ」とは「マネぶ」です。適切な行動をしている子を全体の中でほめていると、モデリングする子が増えます。
- 不適切な行動の場合は、大人が他の方法や手段の違う方法で適切なモデルを示し、本人にリハーサルさせ、それをすぐにほめましょう。それも60秒以内です。

第2回介助員研修会 実践発表「障がいのある児童生徒への具体的な支援について」

9月21日(水)【東地域研修会での実践発表者】 9月14日(水)【西地域研修会での実践発表者】

北 区	葛塚東小・特別支援学級 長谷川笑子, 小柳達朗	秋葉区	新津第一中・特別支援学級 鈴木由香, 林 幸恵, 大竹弥生
東 区	東特別支援学校 伊藤好枝	南 区	白根小・特別支援学級 山崎恵美子
中央区	女池小・通常の学級 伊藤幸子, 佐藤陽子	西 区	五十嵐小・通常の学級 高田優子
江南区	横越中・特別支援学級 阿部 薫	西蒲区	西特別支援学校 山田裕子, 村井百恵, 佐藤容子

(敬称略)



第2回東地域研修会の様子 164人参加

各学校での実践をきめ細かく紹介していただき、参加した93%以上の方から「参考になった」という感想をいただきました。発表してくれた皆様に感謝します。感想を紹介します。

- 子どもたちへの対応は、とても参考になりました。発表された学校が、時間をやりくりして担当の教職員との情報交換をされていました。当校でも是非情報交換できる時間と場所がもてるよう努めたいです。
- 小学校、中学校、特別支援学校、通常の学級など様々な実態や実践の話が聞けてよかった。また、障がい種が違う子どもたちへの支援や子どもの実態を捉えて、子どもを伸ばそうという専門的な立場からの介助を見習って実践していきたいと思った。